

## 演題：平成 21、22、23 年度の健診とレセプトデータからの報告（第 1 報）

演者：栗田直人 1)、齋藤郁恵 1)、畑淳子 1)、各務竹康 2)、早川岳人 2)、福島哲仁 2)

所属： 1)全国健康保険協会福島支部

2)福島県立医科大学衛生学・予防医学講座

【目的】全国健康保険協会（以下「協会けんぽ」）の特定健診受診者におけるリスク保有および治療状況を性、年齢階級別に明らかにし今後の福島支部の事業施策に活用する。

【方法】対象者は、協会けんぽ福島支部に加入する 35 歳以上 75 歳未満の 21 年度 111,800 人、22 年度 118,327 人、23 年度 116,277 人の健診受診者とした。年齢を 45 歳未満、45 歳～54 歳、55 歳～64 歳、65 歳以上の 4 階級にわけた。性、年齢階級別に①血圧・脂質・代謝・腹囲リスク保有者割合②eGFR60 未満者割合③高血圧・糖尿病・脂質異常症治療者割合④喫煙の実態を分析した。リスク保有者はメタボリスクの保有者とした。治療者は健診受診年度から翌年度 9 月までのレセプトから抽出した。

【結果】性、年齢階級別に各リスク、治療状況で違いが有意に認められた ( $p < 0.01$ )。脂質異常症治療者の 55 歳以上を除く全ての項目で男性の有所見割合が女性を上回っていた。血圧、代謝リスク保有者割合は、男女とも加齢とともに上昇していた。eGFR60 未満者は、男女とも加齢とともに割合が上昇していた。高血圧、糖尿病、脂質異常症の治療者割合は男女とも年齢とともに上昇していた。リスク保有者割合では男性は血圧、代謝、腹囲で、女性は血圧で 45 歳～54 歳群で全体平均を上回った。高血圧、糖尿病、脂質異常症の治療者割合で男女とも 55 歳～64 歳群で全体平均を上回った。eGFR60 未満者では男女ともに 55 歳～64 歳群で著しい増加が認められた。喫煙者の割合は年齢とともに減少している。23 年度全国協会けんぽ健診受診者と比較すると、男性の喫煙率が全国平均 44.6% に対し本県は 48.4% で第 7 位、女性では全国平均 16.7% に対し本県は 17.0% で第 18 位とそれぞれ全国平均を越えていた。

【考察】リスク項目ごとに平均を上回る年代、上昇率が著しい年代の傾向が明らかとなった。当支部では、加齢によるリスク保有率および治療者割合上昇起点に着目し、30 歳代はリスクの上昇抑制として「健診受診促進」、40 歳代は高血圧・糖尿病・脂質異常症の治療者減少のための「保健指導利用促進」、50 歳代は 60 歳代以降に増加する eGFR60 未満者の重症化を防ぐために「治療の勧奨」といった、各年代特性に応じた加入者サービスを提供していく。また、喫煙対策にも早急な取り組みが必要であることが示唆された。